

第2回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

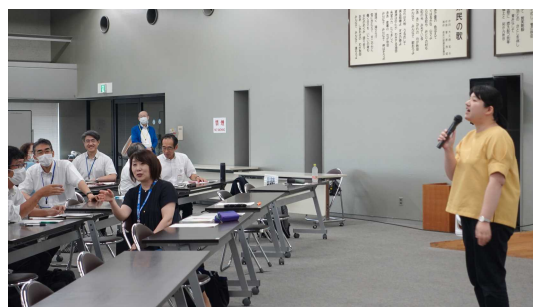
日時：令和6年7月11日（木）10時～15時 参加者：41名（うち市町村等から20名）
会場：秋田県生涯学習センター講堂

「家庭での困り感や様々な問題に対応した家庭教育支援を進めよう」というテーマのもと、今年度2回目の研修を行いました。はじめに、保護者の気持ちに寄り添うにはどのような姿勢が望ましいか、共感できる支援者であるために必要なことは何かについて学びました。次に、ひきこもり支援の実際についての講話を聞き、相談活動をロールプレイを通して体験しました。全体を通して、参加者一人一人にとって新たな発見の多い研修となりました。

【午前の部 講話・演習】

青森明の星短期大学准教授の **高橋 多恵子** 氏に「保護者の声を聴くために大切なこと」と題してお話しいただきました。まず、近年の「ワンオペ育児」「アウェイ育児」と称される「孤立した子育て」に伴い、保護者の子育てを支援する必要性が増している現状を指摘され、子どもの育ちを支えるには保護者の気持ちに寄り添う支援が必要で、そのポイントとして「想像力」と「共感力」を挙げられました。講話の途中でペアによる短い演習をはさみ、想像⇒共感⇒信頼へとつなげるためにはどんな応答の仕方が望ましいのかということについて、参加者一人一人が真剣に考えることができました。

一方で家庭教育支援は「感情労働」とも言われ、支援者側も「ケアされる」ことが重要であるとお話しされました。そして最後に「よき助言者になるより、よき理解者になれ」という言葉を参加者に贈り、講話を締めくくられました。



【午前の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・悩みがある保護者等への接し方がよく分かりました。家庭教育を支援するすべての人に聞いてほしい内容でした。講師の方の人柄にもふれることができ、楽しみながら学ぶことができました。
- ・講話中は心に刺さるワードが盛りだくさんで、とてもためになりました。保護者に寄り添うということは必ずしも優しい言葉を与えるだけではなく、現状を想像し、共感することなのだと実感しました。

【午後の部 講話・演習】



秋田大学大学院医学系研究科助教、特定非営利法人光希屋(家)代表の **ロザリン・ヨン** 氏に「気軽にふらっと～不登校・ひきこもりへの支援の実際～」と題してお話しいただきました。最初に「ふらっと」の活動について紹介され、引きこもりを経験したピアスタッフも支援に当たり、支援する側とされる側を分けないという特徴にふれられました。各々好きなことをしながら、時には得意なことを生かして講師となり、活動を通じて自由な会話と安心できる雰囲気作りをしていることがよく伝わってきました。

後半のロールプレイでは12のシナリオが用意され、参加者が利用者、スタッフ、オブザーバーとなって面談活動を体験しました。参加者は戸惑いながらも必死に話を引き出そうとしていました。最後の、講師によるデモ演習では、「ふらっと」のスタッフが利用者役を演じ、本番さながらの緊張感がありました。困り感を抱える方と「一緒に考える姿勢」について、より深く考えるきっかけとなる研修でした。

【午後の部 参加者アンケートより】（抜粋）

- ・今回のようなロールプレイは初めてで貴重な体験となりました。質問というか雑談のような感じでいかに話したいと思ってもらえるか、会話の糸口を引き出すか、とても難しいことだなと思いました。
- ・複雑で深刻な問題を抱えている家庭への家庭教育支援のあり方についてヒントとなる内容でした。さらに、共生社会の実現に向けた取組の参考となる内容も多く、大変勉強になりました。